関門医療センター
海峡
Speed Standard&Safety Smile
205号 発行所/下関市長府外浦町1番1号　国立病院機構 関門医療センター　発行責任者/病院長 林　弘人　印 刷/(株) アートネクスト

医療保健政策の観点から公衆衛生を考える

国立保健医療科学院で地域医療保健臨床研修

令和元年10月2日から11月28日の約2ヶ月間、埼玉県和光市にある国立保健医療科学院（国の公衆衛生の研究機関）を拠点とした地域臨床研修専門科コースに参加させていただきました。国立保健医療科学院での講義を中心に、厚生労働省インターン、スイスのジュネーブにあるWHO本部での研修、フィリピンのマニラにあるWHO西太平洋地域局での研修、国立感染症研究所訪問など日本国内・国外の公衆衛生分野の医療保健政策を学ぶ機会をいただきました。

他病院から集まった同期11人と共に研修を行いました。私を含む12人の臨床研修医の中で、7人は東京都、2人は大阪府の研修病院で働いており、高知県で臨床研修している2人も出身は東京都でした。そのため、地方で生まれ育ち、地方の病院で研修を行っているのは私1人でした。都心部の病院での働き方は、豊富な医療資源と患者の年齢層の違いがあるため、山口県の病院での働き方とはかなり異なる点が多く、カルチャーショックを受ける日々でした。

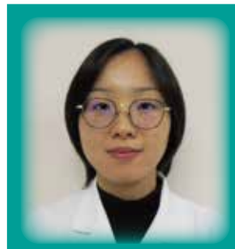
今回の研修の中で、日本の医療をグローバルな視点でみること、また臨床現場を離れた立場から医療を考えることができました。現在の医療が成り立つためには、現場の医療従事者だけでなく、公衆衛生分野の様々な方が携わっています。来年以降、私は公衆衛生分野を中心とした仕事に従事することになっています。本研修で学んだ公衆衛生の知識を活かしつつ、関門医療センターでの臨床経験を忘れることなく、今後の人生で医療現場に貢献したいと思います。

【国立保健医療科学院 地域保健臨床研修専攻科スケジュール】

10月	11月
開校式	WHO研修 ジュネーブ(スイス)［WHO本部において、国際的・先進的な保健医療の取り組みを学ぶ。］
国立保健医療科学院での研修	国立感染症研究所研修
厚生労働省研修	フィリピン研修［フィリピン大学にて、講義や実地見学を通じて、感染症対策に関する基本的事項を学ぶ。］
国立保健医療科学院での研修	研修成果発表会
	修了式

臨床研修医2年目
榊原（さかきばら）　崇広（たかひろ）

お仕事紹介 HOSPITAL WORK



管理栄養士
西田（にしだ）　千尋（ちひろ）
（平成31年度採用）

管理栄養士

Q 具体的にどんな仕事をしていますか？

治療を継続するためには体を養う栄養が十分に摂取出来ていること、摂取方法を知ることが大切です。

そのため、食事摂取量の低下した患者さんの元へ伺い、その方に必要な栄養が摂取出来ているか、その方が食べやすい食事形態か確認したり、食事が困難でも栄養補助食品なら摂取可能か提案するなどの食事対応や、退院後の食事管理方法など栄養管理についての説明を行っています。

また、献立業務として献立作成や、食材の発注・在庫管理等を行っています。献立は病気によってエネルギー、たんぱく質、脂質、食塩量などの制約がある為、その指示の中で朝・昼・夕、365日、出来るだけ同じ食材や調理が続かないように頭を悩ませています。また、患者さんや検食者からのご意見等から材料や調味料、調理工程の見直しを行い、より良い食事が提供できるよう努めています。

Q なぜこの職業を選んだのですか？

将来の夢が決まらず焦っていた高校生の頃、人間が生きるために最も重要であるものの一つである「食」に携わり誰かを支える栄養士という仕事に魅力を感じ、目指すようになりました。

Q 今の仕事をするためにどんな資格が必要ですか？

病院において栄養管理を行うためには、管理栄養士の資格が必要です。管理栄養士は国家資格であり、大学などに設置された管理栄養士養成課程を修了し、国家試験に合格すると資格が得られます。また、管理栄養士養成課程ではなく大学の栄養士養成課程を修了した場合は栄養士として1年以上、短大や専門学校の栄養士養成課程の場合、3年制は2年以上、2年制は3年以上の実務を経て国家試験に臨みます。

また、より専門的な知識・技術を持って栄養管理を行うために、規定の年数の経験を積んだ後に認定試験を受けて取得する糖尿病療養指導士、NST専門療養士、がん病態栄養専門管理栄養士など様々な資格があります。

Q 今の仕事をするためにどのような知識が必要ですか？

管理栄養士養成課程が設置された大学に入学し、4年間栄養について学びました。基礎栄養や臨床栄養、給食管理、公衆衛生等、栄養に関わる様々な科目を履修しました。

4年生の時に必修科目である臨床栄養実習、給食管理実習を行いながら、就職活動・受験勉強を行い、管理栄養士の資格を取得することが出来ました。

Q 仕事に就いてからのキャリア形成について

2019年4月より管理栄養士として仕事を始め、アレルギー調査や食事対応から始まり、最近では栄養指導を実施させて頂いています。病態や調理について勉強した事を、知識としてしっかり伝えられるように試行錯誤しています。

今後は、専門的な知識・技術を身に着けるために糖尿病療養指導士の資格取得を目指していきたいと考えています。

自衛隊ヘリ後送訓練

11月14日（木）自衛隊ヘリによる患者搬送の訓練が実施されました。訓練内容は航空自衛隊見島基地から負傷者を搭載した自衛隊ヘリが当センターに離陸し、患者の受入を行い、職員と自衛隊員の患者の申し送りから、病院のヘリの受け入れ準備（院内放送、駐車場整備）までを実施しました。本物のヘリを受け入れることで本番さながらの訓練となり、災害・事故により負傷者が発生した際の自衛隊をはじめとする関係機関との連携の重要性を実感しました。

〒752-8510　下関市長府外浦町1番1号
国立病院機構 関門医療センター
診療受付時間：午前8:30～11:30
午後（各診療科外来にお問い合わせください）
※土曜日・日曜日・祝祭日は休診 ※臨時休診は各外来窓口に表示
★代表　TEL(083)241-1199
FAX(083)241-1301
★地域医療連携室　TEL(083)241-1191(2561・2377)
FAX(083)241-1302
（★透析センター FAX(083)241-1308）
https://kanmon.hosp.go.jp/

感染特集 ～感染対策の基本～

ノロウイルスは乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層で感染し、12～48時間の潜伏期間を経て嘔吐や下痢、腹痛などの急性胃腸炎を引き起こします。嘔吐が突然起きるのが特徴で、トイレに行く間もなく室内や身の周りを汚してしまうことがあります。感染を起こさない・拡げないために、適切な予防策を行いましょう。

〈感染対策の基本は手洗い〉

ノロウイルスは、①汚染された食物を食べることで感染する経口感染、②手指や環境を介して感染する接触感染、③嘔吐物や糞便などが飛散し、吸い込むことで感染する飛沫・空気感染により感染します。

特にノロウイルスは環境に長期間生存できるため、知らないうちに手指がノロウイルスで汚染されている可能性があります。帰宅時や調理・食事の前、トイレの後など、こまめに手を洗いましょう。

〈環境が汚染してしまったら〉

トイレの便座や手すり、ドアノブなど人が良く触れる場所は、ノロウイルスで汚染している可能性があります。次亜塩素酸ナトリウム（200ppm）で拭き10分程度放置した後、水拭きを行いましょう。掃除の際は、換気をしっかり行うことが大切です。嘔吐物や糞便が付着した場合、速やかに拭き取りましょう。

感染管理認定看護師
三村（みむら）　由佳（ゆか）

〈衣類やカーペットの消毒は?〉

洗剤を入れた水の中で静かに洗い、85℃以上1分間の加熱処理を行うか、次亜塩素酸ナトリウム（200ppm）で30分間浸しすすぎましょう。※次亜塩素酸ナトリウムは漂白作用があるため色物には注意が必要です。

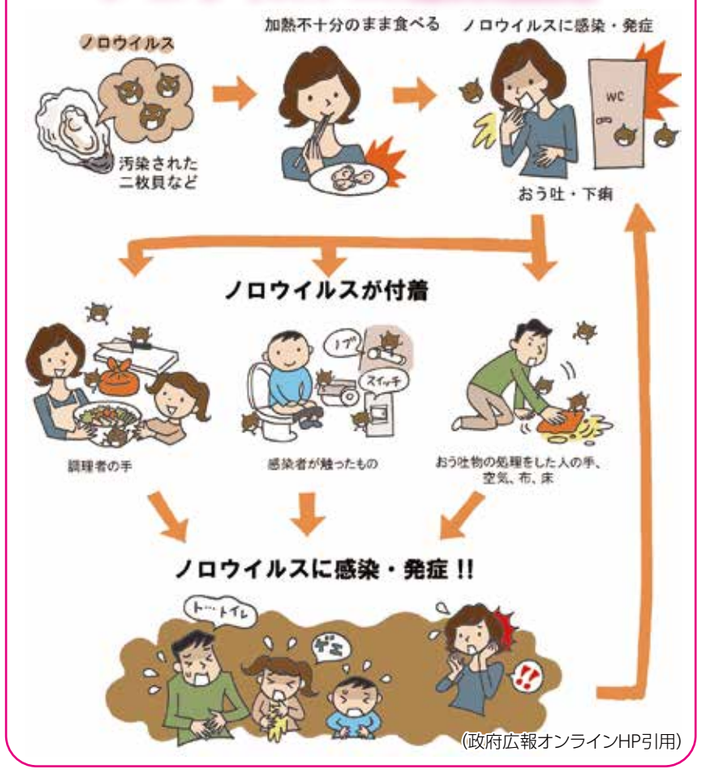
冬はウイルス性感染症が流行しやすい季節ですが、適切な対策を行うことで感染を防ぐことができます。感染から身を守り、この冬も健康に過ごしましょう。

次亜塩素酸ナトリウムの希釈濃度

原液濃度	必要な濃度	希釈倍数	原液量（水1Lの場合）
1%	200ppm	50倍	20ml
	1000ppm	10倍	100ml
5%	200ppm	250倍	4ml
	1000ppm	50倍	20ml
10%	200ppm	500倍	2ml
	1000ppm	100倍	10ml

目に見える汚染がなければ、200ppmの濃度で消毒を行う。（ハイターは原液濃度約5～6%）

ノロウイルスの感染経路



（政府広報オンラインHP引用）

＋＋＋＋ World AIDS Day 2019 ＋＋＋＋

今年もエイズに関する正しい知識等の啓発活動を推進し、エイズ蔓延防止および患者感染者に対する差別・偏見の解消等を図ることを目的に12月1日に全国各地で「世界エイズデー」のイベントが開催されました。今年の世界エイズデーのキャンペーンテーマは「UPDATE! **話そう、HIV/エイズのとなりで～検査・治療・支援～**」です。関門医療センターでは、曜日の関係で11月29日（金）に、院内中央ホールにおけるHIV/AIDSに関するポスター表示や病院外壁をスクリーンとしたproject mappingによるエイズ予防啓発viewingを実施しました。本邦のHIV/AIDSの現状としては、2010年頃よりこれまで右肩上がりに増加をしていた患者数がようやく横ばい状態となりました。このまま減少していくことが望まれますが、ここ数年、梅毒を中心とした性感染症の急激な増加が認められておりHIV/AIDSへ波及することが心配されます。また、本年7月より本邦にて東京オリンピック・パラリンピック2020が開催されます。このような世界規模のイベントが開催される地域には一時的に梅毒やHIV感染症等の性感染症が急増するという報告があります。現状に油断することなく今後に向けた注意が必要です。HIV/AIDS診療に携わる我々としては、正確に現状を把握し、将来に向けて進歩するエイズ治療や検査の重要性を伝えていくことにより、安心して治療を受けることができるように今後も尽力していきたいと考えています。

産婦人科医長
林（はやし）　公一（きみかず）

ボランティアイベント【クリスマスコンサート／手作り迎春グッズ】

看護部・栄養管理室から患者さんのもとへ

令和元年12月25日（水）梅光学院大学の学生によるハンドベルの演奏が行われました。毎年恒例となったミニコンサートに、患者さんをはじめ多くの方にご参加いただき、クリスマス中心の楽曲に優しく厳かに響くベルの音色が、クリスマス気分を一層盛り上げてくれました。

また、演奏後には、楽器に触れたり、演奏についての質問など、和やかな交流の場も演出していただきました。

病室で新年を迎える患者さんに干支の箸袋と、子どもさんには干支のマスコットが送られました。

繁栄のネズミ年となるよう、ボランティアさんが心を込めて準備されました。

クリスマスにベルの音色が響き渡りました

日曜日の朝は「サンデー健康応援講座」（予定）

毎月第4日曜日10:00～11:00　関門医療センター3Fホール

2月16日（日）「手の愁訴に対するアプローチ」

日本整形外科学会専門医　富永　康弘

どなたでもご自由に参加できます

地域医療者のための学習会「関門フォーラム」（予定）

19:00～20:30　関門医療センター3F研修室2・3

2月20日（木）「癌取扱規約勉強会」

病理診断科　村上　知之

興味のある方はどなたでも参加できます。（事前申込必要）